

2020年(令和2年)1月10日(金曜日)



「おかげさま」の思いを生かす「恩送り」

昔から日本人は、人からお礼を言われると「お互いさまですか」と、つつましく答えています。また、物事が無事に終わると、謙虚に「おかげさまで」と感謝したものです。人間は皆、互いに支え、支えられながら生活する存在であることを自覚していたからこそその表現でしょう。

私たちが今日を迎えるまでには、どれだけ多くの人の世話になったことでしょうか。その人たちに對する直接の「恩返し」はもちろんだ切ですが、中には直接返

道徳で人と社会を幸せに

「おかげさま」の思いを生かす「恩送り」

すことのできない恩もあるでしょう。そうしたときは、自分の受けた善意を別の人に「送る」ことです。この「恩送り」ということを心に刻んで、周囲を見渡してみましよう。

お世話が必要な子供たちは、誰もが歩んできた道、手助けを必要とするお年寄りには「誰もがこれから歩む道」。すべては「お互いさま」「おかげさま」なのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)1月17日(金曜日)



相手の立場に立った交通指導

Kさん(六六歳)は毎朝、地元の小中学生の通学路で交通指導をしています。通勤ラッシュで車が多くなる時間に信号のない交差点に立ち、誘導灯で華麗に車をさばいて、子供たちを安全に横断させていくのです。Kさんはこう語りま

「交通指導を始めた当時はピーツと笛を鳴らして車を止めたんですが、今は吹かないんです。自分が笛を吹かれたらびっくりしますし、先を急いでいたらイライラするでしょう。無理に止めたらドライバ

道徳で人と社会を幸せに

「相手の立場に立った交通指導」

「はイライラして、ほかの場所です事故を起こしてしまつたかもしれません。だから、まずは車を通して、次に子供たちを渡すんです」

今ではKさんの姿を見ると自然と停車するドライバー、「待たせてすみません」と頭を下げるKさんに「お互いさまですよ」とお辞儀で返すドライバーが増えてきているそうです。思いやりの心は、周囲に温かい人間関係を生むのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)1月31日(金曜日)



「恩」とは何か

「恩人」「恩恵」「恩知らず」「恩に着る」「恩を売る」「恩を仇あだで返す」「恩に掛ける」など、私たちの生活の中には「恩」のつく言葉がたくさんあります。

そもそも「恩」には、どのような意味があるのでしょうか。

辞書には「他の人から与えられるめぐみ。いつくしみ。また、自分のためになされたありがたい行為」(『大辞林』三省堂)とあります。また、「恩」は「因」と「心」という漢字で構成されます。因には

道徳で人と社会を幸せに

「恩」とは何か

「わけ、もと、ちなみ」の意味がありますので、それに心が加わると、「原因を心にとどめる」といった意味になるでしょう。仏教でも「恩とは、何がなされ、今日の状態の原因は何であるかを心に深く考えること」(『佛教語大辞典』東京書籍)と述べられています。

つまり「恩」とは、現在起こっている出来事の原因や物の成り立ちに気づき、ありがたさを感じるということになるでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)2月7日(金曜日)

**心** 「思いやりの心」は「思いやりの心」を引き出す  
 私たちの心は実に正直です。相手に対する思いが、その表情、言葉、態度、行動などの形になって表れます。相手への優しさや思いやりの心が大きくなれば、それは必ず私たちの言動となって表れてきます。心には、私たちの人生を豊かにする無限の力がひそんでいます。

道徳で人と社会を幸せに

まず自分が思いやりの心を発揮することで、家族の優しさが引き出されてくるのです。そのことを家族一人ひとりが意識して、少したけ想像力をはたらかせ、相手の立場や状況に心を向けてみましょう。そうして自分ができることから「思いやり」を実行に移していくことが、家庭が円満になる秘訣(ひけつ)ではないでしょうか。

道徳「教科化」ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号  
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2020年(令和2年)2月14日(金曜日)

**心** 父母の年は知らざるべからざるなり  
 『論語』(里仁篇)には、「子曰く、いわく、父母の年は知らざるべからざるなり。一はすなわち以て喜ぶ、一はすなわち以て懼(おそ)る」とあります。

道徳で人と社会を幸せに

幸せなのだ」という思いも表れているように思えます。

私たちにあって、親とは非常に大きな存在です。自分にいのちを与え、養い育ててくれた親からは、自分自身が成長し、自立してからも、人生を歩むうえで大きな影響を受けることでしょう。その親が年老いていくときにこそ、これまで見てきた親の後ろ姿や、注いでもらった愛情の深さを思い起こしたいものです。

道徳「教科化」ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号  
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2020年(令和2年)2月28日(金曜日)

**心** 幸せの単位は家族である  
 私たちの日常に当たり前のよう存在する家族に対して、心から感謝するということは、そう簡単にできることではありません。困難に直面したとき、はじめてそのありがたさを痛感したという経験を持つ人も、少なくないでしょう。

道徳で人と社会を幸せに

した)彼らをどん底から救ったのは他でもない、『家族』である」と述べています。そして、「人間の単位は個人かもしれないが、幸せの単位は家族である」とも、家族の絆(きずな)を強めてこそ、どんな困難も乗り越えていく力が育まれます。そして問題を乗り越え、それが幸せをつくり出す原動力になるのではないのでしょうか。

道徳「教科化」ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号  
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2020年(令和2年)3月6日(金曜日)



温かい社会をつくる原動力

私たちは社会の中で生きていく限り、周りの人々の世話や助けを受けるものです。

例えば道路・電気・ガス・水道をはじめ、教育・福祉などの公共のサービスの恩恵を受けない人はいないでしょう。私たちは持ちつ持たれつ、助け助けられる社会に暮らしています。言い換えれば、迷惑をかけたり、かけられたりする関係にあるのです。時には、自分では気づかないうちに他人に迷惑をかけていることもあるでしょう。

大切なのは、そうした関係の中

道徳で人と社会を幸せに

に自分自身があることを自覚することでしょう。そのとき、多くの恩恵に対する感謝の心と共に、自分も身近なところから人々に働きかけ、できることで社会に貢献したいという心が生まれてくるのではないのでしょうか。

そうした一人ひとりの積極的な働きかけが、明るく温かい社会をつくる原動力となり、めぐりめぐってみずからの幸せにつながっていくのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を読む」編集部

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)3月13日(金曜日)



心で数える一、二、三……

熟慮という言葉の「慮」の字は「おもんばかる」と読み、「よくよく考える、思いめぐらす」という意味です。字源から見ると、「心で数えて数える」(『字源辞典』角川書店)となります。私たちは何か問題に直面したとき、「熟慮」できているでしょうか。高ぶった感情を、そのまま他人にぶつけてしまっていることはないでしょうか。

アメリカの情操教育では、「シックスセカンズ・ポーズ」という方法が用いられます(参考『EQ こころの鍛え方』東洋経済新報社)。

道徳で人と社会を幸せに

冷静さを失いそうになったら「一、二、三、四、五、六」と、心の中で数を数えてみるといいものです。この六秒が自分と冷静に向き合う時間になり、高ぶった感情が少し落ち着いてくるのです。

責める心を他人に向ける前に、ひと呼吸置いて慮ってみる。そして、自分を振り返る。そうした心がけが、日々の人間関係を円滑なものにしていくのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を読む」編集部

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)3月20日(金曜日)



お年寄りを支える地域の力

私たちは、社会の「無縁化」にまつわるニュースを耳にしたとき、何を思うでしょうか……。ただ眉をひそめたり、悲観したりするだけでは、何も変わらないでしょう。Hさん夫妻は、手づくりのお弁当を地域のお年寄りに実費で配達するボランティアグループを主宰。年々利用者は増え、活動に共感して参画する仲間の輪も広がっています。「二人、二人の生活では品数を多くつくれないし、出来合いのものを買つと味が濃くて……」という高齢者世帯が心待ち

道徳で人と社会を幸せに

にする家庭の味。栄養のバランスのほか、盛り付けや季節感にも配慮します。また、利用者にお弁当を手渡して様子を確かめるのも大切な役目です。訪問を重ねていくと、生活上の相談を受けることもあるそうです。みずから進んで一步を踏み出し、周囲の人々と心の絆(きずな)を結んでいくことによって変わってくる「何か」もあるのではないのでしょうか。

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)3月27日(金曜日)



「とらわれの心」に気づく

二宮金次郎(尊徳)一七八七〜一八五六)が桜町(現在の栃木県二宮町の復興に当たったときのお話です。復興事業は土地の人々の反発を受けて頓挫とんざ。思い悩んだ金次郎は、成田山新勝寺に籠つて二十一日間の断食(だんじき)修行を行います。その中で「自分は事業を妨害する者を悪人と思つて疑わなかったが、反対者には反対の理由があり、反対者が出る原因は、自分のほうにもあるのだ」と気づいた金次郎は、こんな歌を詠(よ)んでいます。

道徳で人と社会を幸せに

打つころ あれば打たる世の中よ 打たぬころの 打たるは無し ころして何事も受け入れる肚(はら)ができ、どのようなことがあつても復興事業を成し遂げようとする信念を固めたのです。参(ま)考(こ)三(さん)言(ごん)道(だう)徳(とく)著(しゆ) 二(に)宮(みや)金(かね)次(じ)郎(らう)の一生(いっせい)栄(えい)光(こう)出(しゅつ)版(はん)社(しゃ)。よいことをしているはずなのに周囲とつまみかかない——そんなときは「よいことをしている」という「とらわれの心」を、謙(けん)虚(こ)に見つめ直したいものです。

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155